

# 南国市の概要

南国市は高知県のほぼ中央に位置して、南は東西約 8 km の海岸線により土佐湾に面し、北は笹ヶ峰 (1,132m) を起点とする一連の分水嶺を境に本山町に接している。また、東部は物部川を介して香美市、香南市と隣接し、西は県都高知市に連なる総面積 125.35 km<sup>2</sup> (約 2 分の 1 は山林)、人口 48,367 人 (平成 27 年 4 月 30 日現在) の県内第 2 の都市である。



本市の歴史は古く、田村遺跡群で知られるように弥生時代前期にはすでに集落が形成されていた。また平安時代には、当時国衙のあった本市 (現在の比江) に国司として紀貫之が赴任、京都への帰国に際して記された「土佐日記」は、我が国最古のかなで書かれた日記文学として有名である。そして、その周辺は「土佐のまほろば」と言われ、近世以前まで政治・文化・経済の中心地として栄えた。

昭和 31 年 9 月 30 日、後免町・長岡村・国府村・久礼田村・瓶岩村・上倉村の 6 町村の合併により後免町が、大篠村・三和村・稲生村・十市村・日章村・前浜村の 6 村が合併し香長村が発足、昭和 34 年 10 月 1 日、後免町・香長村・岡豊村・野田村・岩村の 5 町村が合併し「**南国市**」が誕生した。その後、旧岩村の一部が土佐山田町へ分離、介良村の一部である伊達野部落を吸収し、さらに、平成 8 年 1 月 1 日には、土佐山田町より蔵福寺島地区を吸収し現在に至る。本年、市制 56 年目を迎える。



交通では、高知県唯一の空の玄関高知龍馬空港があり、JR土讃線と土佐くろしお鉄道・ごめん・なはり線が中央部を横断している。また、国道195号線が香美市を経て徳島へ、国道55号線（南国バイパス）が室戸市を経て徳島へ延びている。市内を縦断し高松市へ延びる国道32号線からは南国インターチェンジにより四国横断自動車道に接続、現在では本州四国3架橋により本州と直結、交通の要衝に位置している。



また、後免町から高知市方面には、全国的にも数が少なくなった路面電車が走っており、現在も多くの市民に愛されながら通勤通学の足として広く利用されている。

産業では、産業別就労人口は、第1次産業 13.2%、第2次産業 18.4%、第3次産業 68.4%（H22 国勢調査）と第3次産業が大部分を占め、田園都市として栄えてきた南国市はその姿を変えつつある。南国オフィスパークや流通団地等の企業団地の整備が進むなど、新産業拠点として発展を続けている。

教育の面では、高知大学医学部、農学部、高知高専および3つの県立高校（高知農業高校、高知東工業高校、岡豊高校）、私立中・高校（清和女子中・高校）が設置され、また、幼児教育として4つの幼稚園（公立1、私立3）と15の保育所（公立7、法人保育園8）がある。

また、義務教育では小学校14校、中学校5校が設置され、約3千600人の児童生徒が学習に励んでいる。

このように、高等教育を含め多くの教育機関に恵まれた本市は、県下に誇れる教育のまちづくりを目指している。



南国市の統計

面積	125.35 km <sup>2</sup>
人口	48,367 人
男	23,030 人
女	25,337 人
世帯数	21,945 世帯
（平成27年4月30日現在）	